

地域包括ケアネットワーク No.54

吉備中央町円城での活動報告

地域包括ケアネットワーク部会委員 塚本 眞言

私は過疎、高齢化の進んだ典型的な中山間地である吉備中央町円城地区（人口約1,000人）を主な診療域として活動しています。

（参考：平成27年度現在、吉備中央町の人口：11,950人、65歳以上：39.1%、要介護認定者：827人となっています。）

昨年1月（第1422号）にも掲載していただきましたが、平成26年に地域包括ケアシステムの先駆けとして、地域全体で高齢者、障害者、子供を支えることを目的とした住民主体の組織である「円城安心ネット」について、今回は活動内容について報告をさせていただきます。

「円城安心ネット」では①医療・介護・福祉、②交通、③生活、④防災・防犯、⑤地域交流の5つの部会に分け活動しています。

①につきましては在宅医療等を目的とした町民公開講座の開催（毎回150名以上が参加）や、がん集団健診会場への送迎、フレイル対策の一環として「骨密度測定」などの活動を備前保健所、吉備中央町の後援により地域をあげて実施しています。

結果、「結核・肺がん健診」においては町内の10地域の中では10ポイント以上の有意差を持って受診率の増加が認められました。また、50歳以上の女性を対象とした「骨密度測定」では夜間など受診しやすい時間帯を設定することにより81人の受診があり、分析結果は1カ月後に説明会を実施し報告しました。（判定5は12名で病院での精密検査を勧奨しました。）

これらの活動はすべて、自治会長、愛育委員などが無償ボランティアとして参加、協力してくださいました。

また、これまで町が実施していた介護予防事業を平成28年度より受託し、毎週1回、高齢者が気軽に集えるカフェの提供、毎月1回の認知症カフェ運営事業を実施することなどにより、住み慣れた地域で最後まで自立した生活ができる環境になるよう積極的に取り組んでいます。

今年8月には吉備中央町の医療・介護・福祉関係の事業所の職員、行政担当者、並びに円城地区の住民代表（自治会長、民生委員、愛育委員、PTA役員など）を対象とした「地域包括ケアと多職種連携」の研修会を御津医師会、吉備中央町などの後援をいただき開催しました。

アンケートの結果、地域住民からは「住み慣れた地域でその人らしく生き抜くことの大切さ、そのためにはどんなことが必要なのか改めて考えさせられた」「地域の安全と共に、福祉についても行動しなければならないと思った」「自分のことばかりでなく、近所の人々にも、もっと目を向けなければいけないと思った」などの意見を頂き、地域の自助、互助、共助に関する意識改革の一助となったと思われました。

マザー・テレサの「わざわざコルカタまで来てボランティアをする必要はない。あなたの町で孤独でさびしく暮らしている人に親切にしてあげることがコルカタにくるよりも貴いことである」という言葉に共感して地域住民と共に活動しています。

②～⑤の部会については、まだまだこれからのことも多いですが、次の機会でご報告できればと思います。